

Weekly report

MINKABU
THE INFONOID

株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都千代田区神田神保町3-29-1

今週の注目材料 = パウエル議長の半期議会証言で見通しに変化？

2020年6月15日

米国での新型コロナウイルス感染者数が200万人を超えるなど、パンデミック警戒の展開が続いています。

一時は感染拡大が落ち着き、米国でも各地でロックダウン緩和の動きが広がりました。

しかしここに来てテキサス州で一日当たりの感染者数が最多を更新。カリフォルニア州でも週間ベースの感染者数が過去最大となるなど、一部地域手状況が悪化。第2波の感染拡大懸念が広がる展開となっており、市場の警戒感を誘っています。

今月9日、10日に開催された米FOMC(連邦公開市場委員会)では、政策金利(FF金利翌日物誘導目標レンジ)を、事実上のゼロ金利となる現行の0.00%-0.25%に据え置きまし。また無期限で必要なだけと無制限になっている量的緩和について、少なくとも現行ペースの買い入れを維持すると示しました。

同時に発表されたFOMC参加メンバーによる経済・物価・雇用・金利見通しにおいて、2022年末まで政策金利を現状のゼロ付近で維持するという見通しを示しました。来年末までは全会一致、2022年末時点でも17名中15名がゼロ金利見通しを示すなど、FOMCメンバーの慎重な姿勢が見られました。

その後の会見(ビデオ会見)でパウエル議長は、利上げについては考えることすらしていない。出来るすべての手段を必要な期間だけ用いるなど、強い緩和姿勢を強調しました。

市場が注目しているYCC(イールドカーブコントロール)についてはなお議論の余地と、今後の議論の継続示唆。市場はもう少し踏み込んだ発言を期待している面もありましたが、年内の導入期待は後退していません。

もともとFOMC翌日のNY市場で、ダウ平均が一時1900ドルを超える下げを記録するなど、米国では株安の動きが加速しています。

中長期的な米景気回復の鈍化傾向を懸念する動きや、新型コロナウイルスの第2波警戒の動きが、パンデミック一服期待で盛り上がった米株式市場の大きな調整を誘った形です。

今後2番底に向けて米株が下げを続ける可能性も十分にあり、4月6月と2回続けて現状維持となった米FOMCも追加の対応を迫られる可能性も十分にありそうです。

そうした中、注目を集めるのが、16日、17日と行われる半期議会証言です。

ハンフリー・ホーキングズ法(すでに失効済みとなっているが、慣例としてつづいているもの)により、FRB議長が半期に一度(2月前後と7月前後)、米国の議会に金融政策報告書(通称:ハンフリー・ホーキングズ報告書)を提出し、両院で議会証言を行うものです。

日本では黒田総裁がかなりの頻度で国会に呼ばれて答弁をしていますが、米国の場合、FRB議長が議会で答弁を行う機会はこの年2回の証言が基本となります。

もともと、必要がある場合は法律を立てて実施する場合があります。

新型コロナウイルス対策の大規模な経済対策法案であるCARES法の下で、先月19日に上院銀行・住宅・都市問題委員会でパウエル議長はムニューシン財務長官とともに議会証言を行いました。CARES法では財務省・FRBが実施している経済対策について、連邦議

会が運営をチェックすることが求められています。

ただあくまで同法に基づいた経済対策についての質疑応答がメインであり、この時はFRBによる地方債の買入れ(MLF)の実施までの準備状況が主題となっています。

一方今回の半期議会証言では、現状の金融政策の説明と今後の姿勢が主題となります。YCCの導入などについても質問が出ることは確実視されるところで、今後に向けた重要な示唆がありそうです。

なお、半期議会証言は前期と後期で先に実施する方が逆になります。2月は下院金融サービス委員会で先に証言が行われましたので、今回は先に上院銀行委員会を実施されます。テキストは両院に同じものが事前配布されています。

議長はFOMC後の会見でも見られた緩和姿勢の継続を強く示してくると予想されています。

あらゆる手段を取るなどの発言は想定済みで反応が難しいところですが、FOMC後の会見で今後の議論継続を示したYCC(イールドカーブコントロール)について、質問などを受けてより突っ込んだ発言が出てくると、年内のYCC導入期待が強まり、米長期金利の下落期待からのドル売りにつながる可能性があります。

山岡和雅 | minkabu PRESS編集部

1992年チエースマンハッタン銀行入行。1994年ロイヤルバンクオブスコットランド銀行（旧ナショナルウェストミンスター銀行）移籍。10年以上インターバンクディーラーとして活躍した後にGCIグループに参画。2016年3月よりみんかぶ（現ミンカブ・ジ・インフォノイド）グループに入り、現在、minkabu PRESS編集部外国為替情報担当編集長。（社）日本証券アナリスト協会検定会員 主な著書に「初めての人のFX 基礎知識&儲けのルール」すばる舎、「夜17分で、毎日1万円儲けるFX」明日香出版社など

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については伴線を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。